

総括

● 千代田区の特徴を活かし、多様な“つながり”が広がっています

様々なつながりを創出するため、区内の大学・専門学校・高校・企業やNPO等との連携・協力を得ながら「多世代交流事業」を実施し、顔の見える関係づくりにつなげています。また、地域課題を話し合う場として「ささえ愛まち会議」や「ささえ愛まちづくり学習会」を開催するほか、地域の福祉課題解決に向け、企業の社会貢献活動とつなげて解決に取り組むプロジェクトを実施しました。

● 住民相互の“支え合い”活動を拡充しています

地域での支え合い活動では、「困りごと24」と「ふたばサービス」を統合し、住民参加型助け合いサービスの再構築を行いました。その際、介護保険では対応できないサービスを加える等、内容を拡充しています。さらに「区民後見人」や「災害時寄り添いサポーター」の養成や企業ボランティアによる高齢者支援活動の構築など、地域ぐるみで支える仕組みづくりを進めています。

● 新型コロナウイルスによる影響が出ています

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、外出自粛や活動制限を余儀なくされており、区民の心身の健康や地域福祉活動に影響が出ている一方で、様々な創意工夫がなされています。

目標1 みんなが“ふらっと”につながり、お互いを認め合う福祉のまち

取り組み1 知り合い、集う

- ▶ 子どもから高齢者まで幅広い世代が一緒に参加できる**多世代交流事業**を実施しました。(令和元年度実績 39回開催 延べ1,564名参加)
- ▶ ボランティアが調理した食事を一緒に食べる**「多世代交流食堂かがやキッチン」**を実施しました。食事前のレクリエーションでは、大学生、高校生、児童が企画や実施に携わり、高齢者をもてなしました。
- ▶ 学生が運営ボランティアとして携わり、**「みんなののうち Ciaoさん」**を実施しました。住民同士の顔の見える関係づくりや地域福祉活動の担い手づくりにつながっています。
- ▶ 認知症高齢者の社会参加の場として**「HELLOマーケット」**を開催しました。(令和元年度実績 3日間延べ501名来場)



取り組み2 学び、話し合う

- ▶ 区内6地区で**「ささえ愛まち会議」**、**「ささえ愛まちづくり学習会」**を開催し、**地域課題の掘り起こしと解決策の検討**を行いました。(令和元年度実績 まち会議149名参加、まちづくり学習会50名参加)
- ▶ まち会議出席者有志による**「ささえ愛コア会議」**を開催し、具体的な取り組みを検討しました。(平成30年度実績 18回、延べ262名参加)
- ▶ 制度や既存サービスでは解決が難しい地域福祉課題を、**企業の社会貢献活動とつなげて解決につなげるプロジェクト**を実施しました。



目標2 みんなが手をつなぎ、まるごと支え合える福祉のまち

取り組み3 地域で支え合う

- ▶ 町会福祉部活動に対し、**地区担当職員が地域行事等に参加するとともに、福祉部活動への助成**を行っています。(福祉部設置町会 66町会)
- ▶ **「困りごと24」と「ふたばサービス」**を統合し、**住民参加型助け合いサービスの再構築**を行うとともに、介護保険では対応できないサービスを加え、**事業を拡充**しました。
- ▶ ふれあいサロンのうち、フレイル対策を行うサロンを**「介護予防型サロン」**と位置付け、**立ち上げ・運営支援の仕組み**を整備しました。(令和元年度実績 新規登録:介護予防型3件、居場所型3件)
- ▶ 高齢者活動センターの**同好会がサロンや長寿会に出張し**、日頃の成果を披露することで、各地域の高齢者に楽しんでもらうなど、**高齢者自身が支え手として活躍**する地域活動に広がりつつあります。



取り組み4 安全と権利を守る

- ▶ 災害時に配慮が必要な人をサポートするための方法を学ぶ**「災害時寄り添いサポーター養成講座」**を実施しました。(令和元年度実績 参加者30名)
- ▶ 成年後見制度利用促進基本計画に基づく**支援体制を構築**するため、福祉施設や関係機関へのヒアリング、アンケート調査、他地区への視察を行い、区や関連機関との話し合いや情報共有による支援体制づくりを進めています。
- ▶ **「区民後見人養成講座」**を行うとともに、区民後見人に対する**「定期相談」**や意見交換・仲間づくりの場として**「受任者連絡会」**の開催、区民後見人候補者を対象とした**フォローアップ講座**を実施しました。(令和元年度実績 候補者名簿新規登録者4名、定期相談9回、受任者連絡会2回、フォローアップ講座3回)

目標3 千代田区に住み、学び、働く みんなが活躍できる福祉のまち

取り組み5 地域の力を活かす

- ▶ **ボランティアセンターのあり方を検討**するため、アンケート調査や既存事業の見直し、方向性の検討会を行いました。
- ▶ ボランティア登録者数を増やすための**説明会や養成講座、スキルアップのための学習会**を開催しました。(令和元年度実績 説明会3回53名参加、学習会2回74名参加)
- ▶ ボランティア活動や住民活動をしやすいするため、活動の注意点等をまとめた**マニュアルやハンドブック**を作成しました。



取り組み6 受けとめて、つなぐ

- ▶ 生活支援コーディネーターを中心に、地域の福祉課題を掘り起こし、**地域における支え合いによる解決を検討**するための**「ささえ愛まち会議」**やまち会議出席者有志による**「ささえ愛コア会議」**を開催しました。
- ▶ **新たな地域福祉活動の推進拠点**として、秋葉原に社協の分室**「アキバ分室」**を開設しました。



新型コロナ禍における”は・あ・とプラン”の進め方

■ こんなことに困っている・・・

【感染・健康が心配】

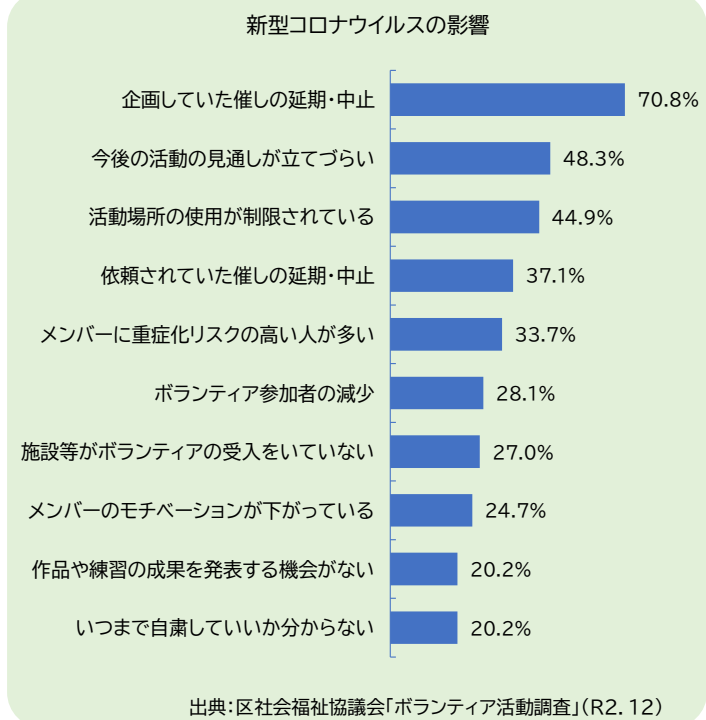
- ✓ 感染が不安なため、区外にいる親族の家に転居した方がいます。
- ✓ シルバー体操が中止になり、身体を動かす機会がありません。
- ✓ 足腰が弱ってしまい、転んでけがをした人がいました。
- ✓ 活動がなくなって以来、認知症の症状が進みました。

【交流活動が減ってしまった】

- ✓ 人との交流が減ってしまい、孤立感が深くなりました。
- ✓ 誰かと話さないと言葉が出なくなる気がします。
- ✓ 笑顔でいることが少なくなった気がします。
- ✓ 会えないので、つい長電話になってしまいます。

【近所の人様子がわからない】

- ✓ 家から出てこない高齢者が心配。



コロナ禍における地域福祉のすすめ方のヒント

オンラインを積極的に活用しよう

実際に会うのが一番。でも感染したり広げたりしてしまうのも不安。そんな時、オンラインツールを積極的に使いましょう。オンラインのいいところは、**どこにいても参加できる**こと。

例えば・・・**オンライン(お茶会・体操・演奏会・訪問・研修)** など

手紙やSNSで新しい関係づくり

直接会えないのなら、**手紙・はがき**で様子や気持ちを伝えてみては？ 気持ちが伝わるのはやっぱり手書き。相手の**返信を待つもの楽しみ**に。字を書くのが苦手な人、リアルタイムのやりとりには **SNS を活用**。子どもたちと高齢者のやりとりから**多世代交流につながり、助け合う関係性**が生まれるかも。

感謝の気持ちと支え合いの広がり

当たり前にできていたことが当たり前ではないと気づかされた今、改めて**感謝の気持ちを伝えたり、自分ができることを考えたり**するきっかけとなった人も多いのでは。阪神淡路大震災を機にボランティア活動が広がり、東日本大震災で絆の大切さが再認識されたように、**コロナ禍をきっかけに“みんなが参加し、支えあうまちづくり”**につなげられたらいいですね。

感染症対策はしっかり

マスク着用や手指消毒、うがいが習慣化したことで、インフルエンザ等の他の感染症もめっきり減ったそうです。**コロナ禍が落ち着いても感染症対策**をしっかりと続けましょう。

■ 区内での活動事例 ～ウチはこんな工夫しています～

町会 では・・・

【対面によらないコミュニケーション】

- メールや電話、SNS を活用し、こまめに連絡を取り合っています。
- ひとり暮らしの方を中心に、インターフォン越しに様子を伺っています。
- メッセージカードを送って安否確認をしています。
- 町会費の納入を集金から振込みにしました。



【多様な主体との連携】

- 民生児童委員や町会長から気になる方の様子を伺っています。
- 区営住宅や高齢者住宅居住者の状況を事業者へ伺っています。

ボランティア では・・・

【オンラインによる活動】

- 打合せや会議、報告会などは ZOOM で実施しています。
- メンバーのつながりやモチベーションを切らさないよう、SNS を使ってこまめに進捗確認しています。
- イベントはオンラインと対面のハイブリッド(組み合わせ)で実施しました。
- オンラインのおかげで、千代田区民に限らず、日本中のいろいろな方と情報交換できました。



【感染防止対策としての活動】

- 読み聞かせでは、マスクに加えフェイスシールドを購入、着用しています。
- 道具の共有や大声で歌う形をやめ、飲食の禁止など、感染リスクの低い方法を検討・実施しました。
- 感染予防マニュアルを作成しました。(利用者向け、ボランティアスタッフ向け)



千代田区社会福祉協議会 では・・・

- 子育てサロンのプログラムや認知症サポーター講座などをオンラインで開催しています。
- 会えなくても多世代交流ができるよう「チャオチャンネル」で動画を配信、テーマを設定し、区民からの投稿も募集し、紹介しています。
- パソコンやスマートフォンが苦手な方をサポートするため、オンライン講座、出張講座を実施しています。



他団体の事例紹介

新型コロナウイルスの影響による外出自粛が長期化する中で、つながりを途切れさせない活動、生活が困窮した人たち、地域から孤立しそうな人たちと必死につながろうとする取り組みが、全国各地に生まれつつあります。

全社協地域福祉部/全国ボランティア・市民活動振興センターでは、令和2年5月15日、ボランティア・市民活動を推進する11の主唱団体およびその傘下の構成団体等とともに、「未来の豊かな“つながり”のための全国アクション」を立ち上げています。全国アクションでは、全国各地の市区町村社協等の創意工夫により展開されている、“つながり”を維持する活動や、新たな“つながり”を創出する取り組み等を紹介しています。

新型コロナウイルス下での“つながり”をあきらめない
地域福祉・ボランティア活動交流サイト

<https://tunagari-action.jp/case/>

